

自己評価および外部評価結果結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を全職員で学び理解に努めている。法人の理念に加えホーム独自の理念を作っている。	社会福祉法人サン・ビジョンの共通理念事業所の理念のもとに、利用者本位のサービスの提供に向けて、10項目の運営方針を設定し共通認識として活動している。	事業所のすべての活動の原点として、この理念の基に深く継続的に全職員が研鑽を積み、実践に活かして頂く事に期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各家庭を回る回覧板はホームも経由している。保育園児やアニマルセラピー・フラダンス・大正琴等様々なボランティアの受け入れや地域の文化祭・運動会等に参加し交流を図っている。	事業所として地域との交流・連携を積極的に進めている。地域性との関係で、親密で建設的な関係構築の重要性と難しさを認識している。	現在実施している事を根気強く継続しつつ、地域の皆さんにも期待される事業所なって下さい。それには時間も必要だと思います。今後努力される事を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	住民対象に月1回地域に出掛け介護予防教室を開き認知症への理解や予防の啓蒙活動に取り組んでいる。時には音楽療法も取り入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や消防関係者・地区役員・ボランティア・家族・職員と大勢参加し概ね2ヶ月毎に開催している。会議ホームの活動報告の他課題を用意し参加者から意見や助言を頂いている。頂いた意見はホームの会議で報告しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には職員は勤務の関係で交替で参加している。会議は40分から90分位で建設的な意見交換がされている。その内容の共有も意が用いられている。	時には職位・立場を離れた、より自由な意見交換や発想を求める"しかけ"の工夫を検討され、マンネリの回避で会議の成果を実践に結び付ける事を期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	学校の先生や高校生の研修場所として、また中学生の福祉や職場体験の場所としてホームを開放し入居者や職員との交流にも活かしている。	インターシップやボランティア活動の場の提供と、それを通して交流と学び合いを意図的に実施している。これは地域の交流・連携の進展にも寄与していると思われる。	市の担当部署との連携・協力体制の構築について、具体的なテーマを持って相談される事に期待します。地域性変革のステップとして有効になる事と思います。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	17時から7時まででは施錠をしているがその他は施錠も含め身体拘束は行っていない。転落の恐れがある方については家族と相談しベッドの下に布団を敷く等の対応を行っている。	ユニット1では、御家族と十分相談の上、安全確保の為必要最小限(方法・時間)の対応を行っている。ユニット2では、現在対象の方はいない。	今後とも、理性的で科学的な対応を心掛け、継続的な研修とオープンな状況認識の共有のもと、組織的な対応でのケアを心掛けて行かれる事に期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学習する機会を意識して作っている。また、あざ等発見した際には事故報告の作成を行い注意を行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在入居されている利用者様には成年後見制度を利用している方はいないが、制度についての学習の今後意識して行っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に変更がある際や解約の際はご家族に案内を配布するまた十分に説明を行う等配慮している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画説明時、電話で話す際等に意見や要望を伺うようにしている。また年1回アンケートを配布している。頂いた意見はその都度話し合い運営に反映させている。	利用者家族のアンケートの内容からも、関係者のコミュニケーションも良好と判断できる。また、職員は利用者の「つぶやき」に注視し、情報の収集と的確な対応に活用している。きめ細やかな配慮を感じる。	アンケートは、諸情勢の変化への対応上年2回程度実施するなどの取り組みをされる事、現状の維持・継続をさらに進めてゆくなど、今後に期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を設け意見や提案を出し合っている。また年2回管理者との面接の場を設けている。出された意見はより良い運営が出来る様検討している。	その内容の検討記録を確認した。一例として、サービス残業のシステムの改善等、事業所全体での前向きな取り組みの事実も確認された。	トップ・ダウンとボトムアップをテーマにより適格に使い分け、事業所の理念の実現に向けて、協力体制をより高く効率的なものに進化向上される事に期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年チャレンジシートを各自で作成し個々の目的を明確にし上司と面接等を行い評価等を行っている。また職場環境等についてもgh会議等を通じ常に改善するように心がけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会や学習会の機会が多くあり職員は交代で参加している。海外研修やグループホーム全国大会へ参加する機会もある。介護支援専門員や介護福祉士等資格取得の奨励制度が設けられている。法人全体で職員の育成・資質向上を図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内のグループホームとの交流は行っていないが、下諏訪・岡谷・辰野・箕輪にある同じ法人のグループホームと切磋琢磨し、その地域に合ったサービスを模索しつつサービスの質の向上に励んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に行う面接等で本人の様子や要望等を把握し職員間で情報共有し入所後も安心した生活を過して頂ける様対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に行う面接や入所時オリエンテーションの際に要望等伺い対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時や入居前の面接でのご家族やご本人の希望を踏まえ、1ヶ月間の暫定ケアプランを作成し見極めを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者である入居者から昔の話を聞いたり、生活の技を教えてもらっている。入居者と話すことで何時でも何かしら教えられることがある。		
19		本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に様子や体調に変化が合った際等は、その都度家族と相談し対応している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	俳句会や馴染みの理髪店での散髪等入所後も継続していける様、家族や知人等と協力し対応している	利用者一人ひとりの個性と好みを大切に、個別的な対応を心掛けている。又、個々人の主体性の差も尊重し、心理的な負担も過重にならない様に配慮しつつ、利用者同志の友好的な人間関係を作っている。	人間関係は常に流動的なものだと思いますが、「つぶやき」の中にその綾もキャッチ出来るものと思われま。変化に敏感であるとともに暖かい対応を期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々関係を観察しトラブルになりそうな時や孤立しがちの方に対しては職員が間に入り入居者同士が良好な関係になるよう取り組んでいる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から依頼や相談がある際は関係機関と連携を取り相談等を行いご家族の不安の軽減を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を把握するため毎日声をかけて確認している。意思表示が難しい方場合は家族や職員間で情報交換し本人本位で検討している	職員は意識的に勤務時の夜間などに、マン・ツーマンで利用者の声をキャッチし、職員間で共有すると共に、見守りとその対応に心掛けている。「つぶやき」の有力な手段と思われる。	声掛け「つぶやき」マン・ツーマン等意識的な行動はとても大切だと思います。見えないものも見えて、利用者に効果的に対応出来ると思います。地道な情報収集を続けられる事を期待します
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に家族や本人から生活歴等を伺ったり普段の会話や行動から情報を得ている。得られた情報は職員で共通理解している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で得られた情報や“つぶやき”はその都度カンファレンスを行い、介護計画に反映させ対応している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の効果確認、状況把握を定期的に行っている。遂行状況を見ながら異常や変化が見られた際は直ちに見直しを行い新たな介護計画を作成し家族に報告している。NMスケール、心身状況8項目表は3ヵ月毎に(若しくは異常時も)確認した上で計画内容の見直しを行っている。	P・D・Cを意識的・計画的に関係者チームで実施している。定期的にルーチンワーク(日課となっている決まりきった仕事)をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画を明記し日々の様子や実践及び結果を記録している。また職員間の申し送りにて気づいたことや工夫したことを共有しそれらを基に介護計画を作成している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や受診、買い物等の外出は家族の都合が悪い時に付き添っている。また遠方の家族からの宿泊希望も対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への買い物や行事等利用者様が参加できることについては職員とともに参加し日々の暮らしを楽しんでいただけるよう工夫を行っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望に沿っている。家族の希望で月1回の往診を受けている。かかりつけ医に受診する場合には職員も付き添うこともあるが、家族のみの場合は情報提供書を作成し医療機関と連携している。	利用者家族のアンケートから、利用者・家族・事業所・かかりつけ医との連携は適格に友好裡に進められている。家族からの信頼も得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤での看護師を配置し利用者様の身体変化の早期発見ができるようアドバイスを受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医及び医療機関と情報交換を行い、本人や家族に安心して頂けるよう対応している。また、退院時は医療機関からの情報を職員間で共有しケアにあたっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に関わる指針があり契約時に本人・家族に説明し同意を得ている。看取りに関しては環境等様々な問題があり模索しながら対応している。	左記の対応に関する指針(文書)を確認した。細部に亘り記載され、契約時に事前に関係者で確認しておくことは、的確な対応とトラブルの防止に有効と思われる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署の協力を得て救急法・心配蘇生術の研修を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回ホーム内で防災模擬訓練を行っている。また、年2回消防署の指導の下、地区消防団や地区役員参加の中防災訓練を実施している。スプリンクラーの設置は現在一部のため22年に向け残りの部分を検討中である。	法令と計画に基づき必要な処置を講じている。スプリンクラーの設置については、両ユニットとも、平成22年度実施の計画である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱い・守秘義務に関しては職員教育を行っており周知徹底を図っている。申し送り時やカンファレンスで職員の意識向上を図り、入居者のプライドやプライバシーを損ねない対応の徹底に取り組んでいる。	利用者とその家族についての情報(個人情報も含む)の、教育と日常的な注意喚起を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員ができる限り傾聴を行い、日々のつづやきを収集しご本人の希望が叶えられるようにケアを行っている。また日々の暮らしの中で自己決定指定いただける機会を意識して作っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者がその人らしく生活できるように一日の予定はあっても柔軟に対応している。“つづやき集”を活用しながら一人ひとりの思いの把握に努め支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望でヘアカラーや洋服の買い物、化粧品等を個別に対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来ること・出来ないことを把握し食事の準備・片付けを一緒に行っている。	食事の用意に利用者が喜々として取り組んでいる。お手伝いというより主体者として楽しんでいると共に責任も分担している喜びも感じている様に感じた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士資格保持者がおり、献立に目を通し栄養バランス等を確認している。地元の食材や旬の食材を取り入れた料理を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に口腔チェック・義歯洗浄を行っている。個別に往診等を依頼しその方にあった口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを把握し対応している。変化等あった際は都度カンファレンスにて情報共有をしている。	利用者個々人の状態に対応したケアが行われている。現状では、問題は無い様である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に飲食物を提供したり日々の食事に便秘に効果のある食材を取り入れる等の対応を行い便秘の軽減に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望にあわせ16時から始めている。拒否が見られる方に対しては午前中から入浴への働きかけを行い徐々に入浴したい気分を高めて頂けるよう支援している。入浴は毎日可能であり半数以上の方が毎日入浴されている。	2か所の風呂を活用して利便さを図っている。風呂場も清潔で好感が持たれた。入浴が楽しめる様な気持ちにされるよう努力されていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休息時間は特に設けていない。一人ひとりの習慣や状況に応じて休息をして頂いている。また日中は体を動かす機会を取り入れ夜安眠できるように心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬の薬剤情報の確認を行っている。また普段から様子観察を行い状態変化の把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人がやりたい事・出来る事を心理面を含め情報を共有し、家族と相談しながら個別対応している。入浴後ビールを飲まれる方・部屋に電話を引いている方・家族に手紙を書かれる方等がいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期には施設周辺の散歩やスーパーへの買い物に出掛けている。花見や紅葉狩りでドライブや個別での外出も行っている。	利用者はそれぞれの希望で楽しんでいるようであった。職員からの散歩・買い物への声かけがうれしい様である。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は1名おり外出時に好きな物を購入されている。その他の方は家族の希望で所持されていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を引いたり家族からの電話で会話されたり手紙を出したりとその方の希望を実現できるよう家族と相談し支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり入居者の絵画や作品を飾ったりしている。また定期的に温度等を確認し電球は明るすぎない物を使用している。	清潔で居心地の良い居室・居間・共有空間である。室温が気持ちよく照明も明るすぎず、落ち着いた感がある。嫌な臭いもなく、カーテン・調度品・飾り物も好感を持てた。	アンケート時にトイレの汚れが気になる旨の意見があったが、細かな配慮・説明は必要かと思えます。配慮に期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファを置き何時でも好きな時に独りになったり談話できるようにしている。またウッドデッキにベンチを置いてあるため洗濯の後外で休んだり談話される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し自宅で使用していた家具や布団を持参して頂いている。また遺影やテレビを置かれている方もいる。	利用者それぞれの好みで室内はレイアウトされていた。身の周りの持ち物で自由を楽しんでいるように感じた。又、整理整頓されており、綺麗で落ち着いた生活をされているように見えた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内については安全にすごせるよう配慮を行っている。また掲示物を活用し判りやすくしている。		